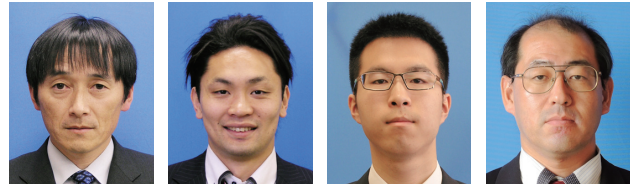


ETC2.0 車両運行管理支援サービス社会実験

(研究期間：平成 27 年度～平成 29 年度)



道路交通研究部 高度道路交通システム研究室

室長 吉田 秀範 主任研究官 大嶋 一範 研究員 大竹 岳 交流研究員 根岸 辰行

(キーワード) ETC2.0、車両運行管理支援サービス、物流

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. はじめに

国土交通省では、道路を賢く使う取組の一つとして、生産性の高い賢い運行管理の実現を目指しており、ETC2.0を用いて、車両の運行管理を行う物流事業者等に走行位置やブレーキ等の情報を提供することにより、運行管理の効率化やドライバーの安全確保等の取組を支援する「ETC2.0 車両運行管理支援サービス」の導入検討を進めている。

2. 社会実験の概要

国総研は、この「ETC2.0 車両運行管理支援サービス」の検討として、車両の運行管理を行う物流事業者等を公募し、運行管理の効率化やドライバーの安全確保等のサービスの有効性や実現可能性、社会的な効果を分析・評価し、円滑な施策展開に資することを目的に社会実験を平成28年2月から実施している。なお、当実験においては、事業者等の申請により、ETC2.0車載器のIDを用いて車両を特定して抽出した特定プローブデータを活用している。

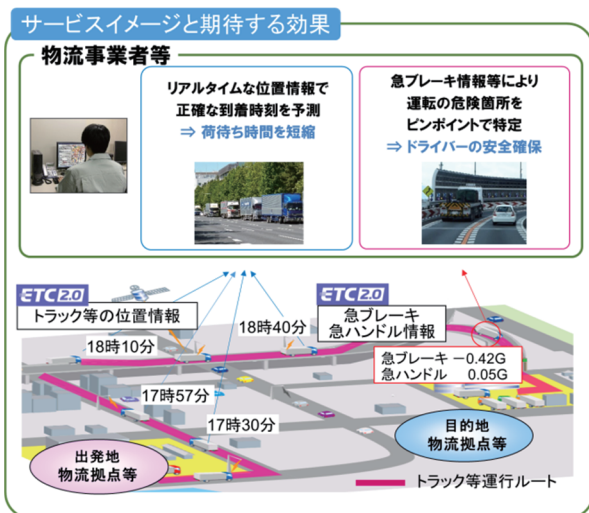


図1 車両運行管理支援サービスイメージ

3. サービスの効果評価

「ETC2.0 車両運行管理支援サービス」には、車両位置情報を活用したサービスと急ブレーキ情報等を活用したサービスがある。

車両位置情報を活用したサービスには、走行中の車両位置を確認でき、配送先までの到着時刻を予測できるサービスなどがある。本サービスを利用した19者中17者が、車両位置の確認による迅速な問合せ対応や、到着時刻の伝達によりドライバーや荷捌き作業員の荷待ち時間の短縮に効果があるなど、本サービスが役に立つと評価している。一方で、路側機が設置されていない区間での情報収集が遅れる等の課題もあり、対策の検討が必要である。また、12者が、今後も継続的に本サービスを利用したいと回答している。

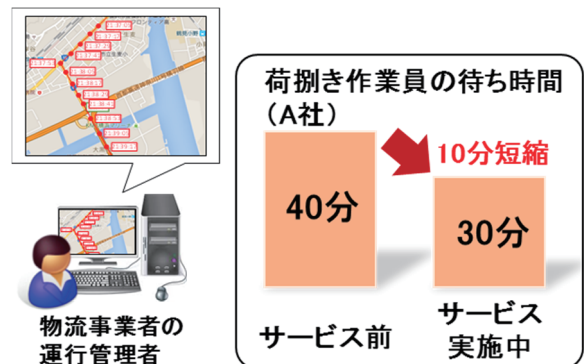


図2 車両位置表示サービスのイメージと効果例

4. 今後の取組

平成30年度から「ETC2.0 車両運行管理支援サービス」が本格運用される予定である。今後も当サービスの更なる利便性の向上に向けた検討を進める。

☞ 詳細情報はこちら

1) 第14回物流小委員会 ETC2.0車両運行管理支援サービスについて

http://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/road01_sg_000376.html